

富士・東部広域環境事務組合一般廃棄物処理施設整備事業環境影響評価準備書説明会

◆質問・回答一覧

R8.2.25 富士吉田市 参加人数 7名

R8.2.26 西桂町 参加人数 3名

質問No	質問内容
①	騒音や振動について、建設する際に基礎をどのくらい掘るのか、その地下に溶岩があるのか、その調査をしているのか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・建設予定地の地盤調査は実施済みであり、岩盤への影響がないような工事を計画します。 ・溶岩層は2層あります。
②	色々な調査をしている中で、上暮地の公民館に機械が設置してあったが、その位置を決めた理由は何か。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書手続きの前に実施した方法書の手続きにおいて審議会や知事の意見をいただいた上で、影響を把握するのに適当な範囲の中から、電源確保や設置場所の協力が得られる公民館や学校などを、調査地点として選定しました。
③	工事期間中の騒音が基準に近い数値が出ている。工事は長期に渡ると思うが期間とかを加味したうえでこの予想を出したという事で良いか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の詳細は実際に工事の設計をしなければわかりませんが、他の同様な事例を参考に、この期間に重機が何台、どの辺で動くのかという想定をしています。造成工事、基礎工事、コンクリ打設、鉄骨を建てるという工程を追い、どの時期が一番環境への影響が大きいか想定をしています。 ・実際の工事を精密に想定することができないので、これより増えることはないだろうという過大な数字を入れて予測計算を行います。このため、予測結果は最大の数値となっています。
④	県道からの道路を新しく作っているが工事車両の進入ルートは決まっているか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・工事車両の進入ルートは、交通量の多い場所を避けるよう、仕様書を通して施工業者に指示をします。
⑤	小学校が予測地点に選定されており、予測結果は基準よりだいぶ低いようだが、小学校、中学校への影響が気になる。それに対して、余った電力を地元の小中学校に回していただくなど、地元に対して何かできることを考えてもらいたい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・電力供給につきましては、ごみを燃やしてその熱を利用して電気を起こします。それを工場内で使用し、余った余剰電力を電力会社に販売する形になっています。 ・組合が作る施設でできる電力である関係上、施設付近の富士吉田市の施設に直接電力を供給することは難しいのですが、その電気は多かれ少なかれ色々な形で地元でも利用されます。
⑥	<p>大気、水、土壌のことは、住民が一番気になると思います。煙突から出た煙は大気に拡散するとはいえ、その煙を普段地域の人たちは吸っているという事の中で聞きたい。</p> <p>新施設稼働によりごみ処理量が増え、煙突からより多くの煙が出るようになる中で、チリ等を処理しなければならないと思う。この予測結果は国の基準の一桁下だから問題ないだろうということだが、どういうことを根拠に予測しているのか。</p>
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガスの量の想定は、施設規模が大きくなるのに伴って多くの排ガスが出ますので、メーカーアンケートから最も排ガス量が大きくなるパターンを想定して、予測計算の条件とします。 ・排ガスの濃度は、新しい施設には厳しくこの値を超えてはいけないという制限、基準が設けられています。富士吉田市環境美化センターの焼却施設と同様に、実際の排ガスの濃度は基準より低い濃度になると考えられますが、それは考慮せずに基準値を超過しない最大限の濃度を想定して、予測計算の条件とします。したがって予測結果は、かなり過大な値と考えていただきたい。
⑦	施設が稼働してからも調査した結果の公表や、予測との比較などもしていただけるのか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働後も引き続き調査します。確認のために当然行うべき環境影響評価の事後調査のほかに、心配されている排ガス等については、常時、公の場や施設で公害防止基準に対してどの位なのかを公表するような形を取ります。
⑧	今回、施設の外部に対しての環境影響について説明がありましたが、施設の中で働く人たちの環境の調査は含まれていないのですか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の中については、環境影響評価とは違う形で作業環境の調査を行います。労働環境の保全の面から、労働安全衛生法等に基づいて行う調査で、今でも富士吉田市環境美化センターで定期的に行っています。